

甲南21クリエイティブプラン・ディベロップメント
中間報告

キャンパスから始める環境啓発活動

- 「いのち」の環境教育・クラブとのパートナーシップ・地域連携を通して -

2007年9月28日(中間報告)

甲南大学文学部人間科学科 谷口ゼミナール

キャンパスから始める環境啓発活動

- 「いのち」の環境教育・クラブとのパートナーシップ・地域連携を通して -

主旨または目的

今日、環境問題は年々深刻になってきており、その影響が温暖化や異常気象などの自然現象に顕著に現れるようになってきている。その改善を考えるに当たって、今年度私たち谷口ゼミは環境問題を地球規模で考えることで様々な角度から環境問題を考え、同時に学校・地域単位で活動することが重要であると考へた。体験学習を通じて感じたこと、経験したことを伝えながら、何かしなければと考える人たちを環境活動に容易に取り組めるようにサポートしていく。

昨年度は、「循環型キャンパスを目指した甲南人の環境意識の向上」に努めてきた。その一環として、甲南大学環境教育野外施設（広野）において無農薬農法によるもち米・野菜作りや、現在のライフスタイルを見直す自給自足生活の体験学習を実施した。また、学内においては生活協同組合北館（以下生協北館）の協力によるリサイクル・広報活動を通じた連携の強化に努めた。さらに、神戸市北区にある「あいな里山国営公園」（国土交通省）において、「あいなバイオパーク」（市民団体）の里山保全活動に環境ボランティアとして参加してきた。そして里山の環境の保全、あいな里山文化及び伝統をヒアリングし、データの収集などに取り組んできた。

今年度「キャンパスから始める環境啓発活動」のプランは、昨年度の活動を受け、フィールドでの活動、校内の活動、阪神地域との連携による活動を通し、環境意識の向上のための啓発活動を推進することを目的としている。

プラン 「体験学習を通じた環境活動 『いのち』の環境教育 」では広野でのもち米・野菜作りや自給自足生活の体験学習を通して、いのちの育みを知り、自分たちが苗から育てた野菜を食べることで、いのちの大切さを見直す。

プラン 「パートナーシップによる環境啓発活動 部活動・学内組織との連携を通じた環境意識の向上 」では、クラブや学内組織との連携や「環境啓発シンポジウム」を通して学内での環境意識の向上に取り組む。

プラン 「地域連携による環境活動のネットワーク KEMS・地域連携プロジェクトを通じて 」では、昨年度に引き続き生協北館において、KEMS認証取得に力を注ぐとともに、「あいな里山国営公園」（国土交通省）での里山村の復興を支援する環境ボランティアを通じて地域との連携を強め、里山文化を伝承し、伝統文化のデータを収集する。加えて、甲南三学園において幼稚園から大学生まで世代を超えた環境教育を行なう。これらの活動によって環境啓発活動のネットワーク拡大を目指す。

プラン : 体験学習を通じた環境活動 「いのち」の環境教育

(1) 不耕起農法によるもち米作り

米作りは、田植えの準備として4月に田起こし、5月に苗床づくり、もみまき、6月8日(金)～11日(日)に田植えを行なった。また10月に稲刈り、脱穀、12月に収穫したもち米を餅にして、収穫祭を行なう予定である。

並行して、3月から田んぼの一部に畦を作って区切り、水を溜め、冬期湛水(冬の時期に田んぼに水を張ること)を始めた。最初は畦から水漏れをしていたが、穴をふさいで修正していくうちに少なくなってきた。しかし4月下旬、農業用水の使用順により水が使用できなくなり、溜めていた水が干上がるという事態が起こった。これはこれからの課題となるだろう。その後は、草抜きをしながら様子を見て、5月の田ごしらえからは、伝統的農法と同じように、水をいれ、田植えを行なった。現時点で見られる二つの田んぼの違いは、不耕起農法で植えた苗の方がやや色が薄い。これはトラクターをかけていないために、土全体に栄養が回っていないからではないかと考えられる。しかし、水を切らないようにすることで、改善されることではないかと考える。



田植えをする尼崎北高校生(高大連携サポート)
(6月9日)

(2) 伝統的農法による野菜作り

4月から堆肥・石灰を撒き、トラクターをかけ、畝を立てるなどの土作りを行ない、5月12日(土)に、甲南大学環境教育野外施設の体験学習のフィールドにおいて、夏野菜のナス、キュウリ、トマト、ミニトマト、ピーマン、シシトウ、オクラ、トウモロコシ、サツマイモ、ゴーヤ、枝豆、落花生、カボ

チャ、小玉スイカを植えた。また、7月7日(土)には、甲南大学の大学生、親和女子大学生、尼崎北高校の高校生、と共に収穫した。

さらに今年度から、大根や、うすいえんどう豆の種を保存し、来年度にはその種から植えて育て、生命の循環について学ぶことを予定している。



苗を植える学生(農作業の指導)
(5月12日)



うすいえんどうの種

(3) 自給自足生活の体験学習

昨年度に引き続き、8月4日(金)から7日(火)まで4日間、甲南大学環境野外施設(広野)において、自給自足の体験学習を行なった。今年度は台風の影響で3日が中止となり、4日から開始となった。参加人数は述べ10人で4日間を通して自給自足生活を行なった学生は6人であった。

今年度は現代生活から一步離れた生活をする事で現代のライフスタイルを見直すこと、及び前年度以上の衣食住の充実や日常において、足りないものや余分なものを見つけ、みんなで協力して生活することで共同生活における人と人との関わりあいの大切さを感じることを目的とした。

住居は、前年度より参加人数が多かったため、生活スペースの拡大に力を入れた。その結果、10人全員で生活することのできる住居が完成した。しかし、強度はその分低くなり、今後の課題となるだろう。

食事は、広野の畑で収穫した野菜と、前年度田んぼで収穫したもち米を用いた。さらに今年度は新たに育てたかぼちゃにより、料理の種類が前年度より増えた。さらに、かぼちゃの種を炒って、塩をまぶし、おやつにしたりして、一つの食材の調理法を変えることで無駄なく利用した。

さらに今年度は、前年度虫に悩まされたので虫除けになるハーブのレモングラスを4月から育て、蒸留酒と混ぜた手作りの虫除けスプレーを作った。その結果、蚊に刺される量は激減した。さらに、残ったレモングラスをハーブティとしても使用した。また、薪の使用を最小限に抑えるために竹から炭を作ったり、竹で各々好きな楽器を作ったりして、自然にあるものを材料や道具として加工し、利用できるようにした。

今年度は前年度よりも気温が高く、そのような炎天下の中でも、ご飯を作り、寝る場所を作らないと生活ができない。普段当たり前にあることを自覚することで、ライフスタイルを見直すことができた。また集団生活を体験することで、お互いを思いやる気持ちが不可欠であると学んだ。



竹と藁で作った住居



畑で収穫した野菜で作った料理



竹で作った炭

自給自足を終えた生徒の感想文

四回生 白井絵理奈

今回の自給自足生活を通して、学んだことは共同生活で協力する事の重要性和、普段の生活がいかに便利で、自然を浪費しているかということを確認しました。今年は猛暑ということで、ニュースでもその影響が毎日のように報道されていますが、温暖化や異常気象の原因についてもっと真剣に考えなくてはいけないと思いました。また、今回その暑さで体調を崩す人もいたので、自身の体調と他の人の体の具合を見極めることが大切だと思いました。真夏なので、水分補給を十分にし、早朝や夕方の時間帯を上手く利用するなどの対策も考えなければいけないと思いました。今回の体験を通して私たちの生活がいかに無駄が多い事が分かったと同時に集団生活には他人を思いやる気持ちと自分を思いやる気持ちのバランスをうまく取る事が大事だと感じました。

三回生 宮元 梨菜

今回の自給自足生活の体験学習を通して私は、非常に大切なことを学んだ。

私がこの生活において強く感じたことは、火を熾すことが非常に難しいということである。火を熾さなければ水を飲むことはできないし、ご飯を炊くこともできない。普段からガスや電気の便利さに慣れてしまっている私たちにとって、その有難さに気付くことのできる瞬間というのは、それらがなくなった時なのだと思えて感じた。

そして私がもう一つ強く感じたことは、時間の大切さである。時計の存在が大きく、また携帯電話やテレビ、インターネットに無駄な時間を費やしている。時計や携帯電話など、文明の機器を使わない生活は、時間の流れがとてもゆったりしていると感じたし、何より夜が非常に長く感じた。この生活を通して、携帯電話やインターネットが自分にとってどれくらい必要なものなのかをじっくりと見極めた上で、時間というものを有効に、そして大切に使いていきたいと思った。

この自給自足の体験は、現代のライフスタイルを見直し、実生活にも無駄をなくすということが目標であると思うが、自分自身と向き合うこともまた、目標としているのではないかと感じた。今回の体験で集団生活の中において、新たな自分の一面を知ることができ、私にとって非常に貴重な体験となった。

プラン : パートナーシップによる環境啓発活動

クラブ・学内組織との連携を通じた環境意識の向上

(1) クラブと連携して行なう環境啓発活動

6月15日(金)に茶華道料理部道心会(以下、茶華道)と共に10号館横の花壇に花の苗を植えた。花壇には、種から育てたおもしろい花、日々草の苗と、ひまわり、サルビア等の種を植えた。茶華道の部員は、「いつも何も気にせず生けている花を育てるのがどんなに大変か初めて知った」という感想を述べていた。また私達ゼミ生もただ花を植えるだけではなく、花を魅せるという要素も教えてもらった。これからも茶華道の部員と共に花壇の世話をしていく予定である。



茶華道料理部道心会との花壇作り
(6月15日)

6月25日(月)にKSMLと共に、環境についての学内放送を行なった。内容については身近なことから始める環境活動についてお互いの考えを話し合い、それを放送してもらった。これにより、様々な環境活動を甲南人に伝える事ができ、さらにKSMLの部員の方たちから様々な意見を聞くことができた。その意見を今後のゼミ活動に活かしていき、これからの環境活動を更に発展させていきたい。



KSMLとの校内放送作り
(6月25日)

(2) 学内組織とのパートナーシップによる環境啓発活動

1. 第7回「環境啓発シンポジウム」の開催の予定

甲南大学環境総合研究所主催「環境啓発シンポジウム」における7つの組織【学生部、管財課、生活協同組合、関西明装(株)警備部、(株)神戸エイコーサービス、(株)対馬造園店、谷口ゼミ】と学生とのネットワーク構築のサポートをする。7つの組織それぞれの立場からの現状を報告し、それを学生が把握する事で、甲南大学の学生自身が環境問題を考え、改善するために行動を起こすきっかけになると同時に、学生とのネットワークの強化につながると考える。「環境啓発シンポジウム」は、例年通り12月に開催する予定である。

2. 学内組織との花壇作りも予定

対馬造園と協力して、秋に花の植え替えの手伝いをする予定である。さらに、文学部事務員の人達と種から苗をつくり、花を植えるといった活動を行なう予定である。苗は八重矢車草を

現在種から育てている。

(3) アンケート調査による環境啓発活動の現状把握

全体の環境啓発活動の成果を目に見える形で確かめ、次の活動につなげるためにアンケート調査を行なう。具体的には、クラブの部員に活動の前後、また生協北館の職員にK E M Sの認証取得に向けた取り組み前後にアンケートを取る。これらの結果からどれだけ環境意識の向上が図れたかを調べ、成果を確認する。これらの結果を摂津祭で公開したり、生協のホームページの中の情報パックに掲載する事で甲南人の新たな気づきにつながる事が期待できる。今年の5月に生協北館の職員22人に環境意識についてのアンケートを実施した。来年1月に再びアンケートを実施し、K E M S取得前後の結果を比較する予定である。

プラン : 地域連携による環境活動のネットワーク

K E M S・地域連携プロジェクトを通じて

(1) 環境啓発へとつなげるK E M S認証取得を目指して

9月からのK E M Sによる環境負荷削減スタートを目指し、4月から毎月生協北館の高熱費や水道代を記録し、環境負荷の実態を資料にまとめている。5月には北館職員の環境意識をアンケートで調査した。また、一番排出量の多い紙ごみのリサイクルを促すため、コピー機の横にミスコピー用紙のサイズ別回収ボックスを設置し、横にリサイクルを推進するポスターを貼った。これらの活動から北館の職員と甲南人の環境意識の向上ができればと考えている。



サイズ別回収ボックスの設置（於：生協北館）
(5月21日)

(2) 「あいな里山国営公園」(国土交通省)における環境教育ボランティア

6月16日(土)に「あいな里山国営公園」(神戸市北区)で活動を行なっている「あいなピオパーク」の田植えに参加した。昨年度はイノシシの食い荒らしによって稲刈りや脱穀ができなかったが、今年度の現段階ではイノシシの被害はないため、今後は稲の収穫にも参加する予



あいな里山公園での田植え
(6月16日)

定である。ヒアリング調査においては、前年度の内容をゼミ生全員で共有するために、テープ起こしを行なって、文章化に取り組んだ。今後はその前年度の資料をもとに、どのようなヒアリングを行なうかをゼミ内で検討するとともに、NPO「自然と友達になろう」代表の三宅慎也氏にも意見を伺いながら、地元の人々にヒアリングをする予定である。

(3) 甲南三学園における幼・小・中・高・大学間の環境教育サポート

甲南三学園環境教育のプロジェクトの活動として、私たちは2001年度以来今年度も甲南幼稚園児から大学生とともに、広野での田植え、稲刈り、脱穀、もちつきなどの米作り活動、及び住吉川環境学習を一緒に行なっていく予定である。

6月9日(土)には田植えを行ない、甲南小学校、甲南中・高等学校、甲南女子中・高等学校の学生に大学生が指導し、環境教育のサポートを行なった。今回、当初天候が

悪く、田植えが出来ない状況だったため、その間屋内で竹細工やネイチャーゲームなどを実施し、天候の回復を待った。その後天候が回復し、全員で田植えを行なった。生徒は初めての田植えを経験し、また蛙やあめんぼなどと触れ合ういい経験になった。また、米作りは天候と深く関係しているということも改めて実感した。



田植えをする甲南小学生(6月9日)

2007年9月22日(土)には今年で8回目となる「住吉川の環境学習」を甲南小学校・住吉川において行なった。甲南小学校4年生60名、甲南中高生25名、甲南女子高校生38名、教職員16名、甲南大学生15名が参加した。

まず参加者全員でクリーン作戦として住吉川のゴミ拾いを行なった後、「生き物調べ班」、「自然を詠む・描く班」、「水質調査班」、「ゴミ調べ班」の4班に分かれて作業を行なった。

「生き物調べ班」は、住吉川の上流と下流に分かれ、生息している生き物を採取した。その後、教室で採取した生き物の種類や名前を図鑑などを使って調べた。上流にはカワムツやスジエビが生息し、下流にはトンボのヤゴが多く生息していた。住吉川のカワムツはけんかした跡がなく、ひれがきれいで、芦屋川のカワムツより大きかったのが特徴であり、他の人工的に作られた川に比べて美しさが維持された川だと分かった。



「生き物調べ班」



「自然を詠む・描く班」

「自然を詠む・描く班」は、住吉川にある動植物などの気持ちになって、各々の好きな場所で住吉川の風景や生き物のスケッチを行なった。その後、教室では、スケッチに色をつけたり、俳句を詠んだりした。

「水質調査班」は、住吉川の上流から下流まで測定できるように、4班に分かれて調査を行なった。水質調査キットを使い、pH、NH₃、CODを測定し、水温、流速、水深、川幅も測定した。その後、教室では、測定結果をグラフに書き出し、上流と下流の水質の違いについて考察した。

その結果、上流の方が下流に比べてきれいだという事が分かった。

「ゴミ調べ班」では、住吉川に落ちているゴミを上流から下流に歩きながら拾い、それを学校に持ち帰り、グラウンドでそれぞれの班のゴミの量や種類を調査し、住吉川の美しさを維持するために何をすればいいのかというテーマで考察した。

環境学習に参加した小学生達は花や魚などの自然を近くで見ることができてよかった。携帯電話などの大きいゴミも捨てられていた。何で捨てるのか分からないと話していた。

以上のような活動を各班で行なった後、講堂において各班の発表が行なわれた。

谷口ゼミ生は、主に小学生の引率や、作業の指導などを行なった。この環境学習を通して、指導することの難しさや自分たちと子供たちの環境に対する視点の違いを学んだ。また、住吉川のような身近な場所の環境について考える事から、少しずつ視野をひろげ、これからの環境活動につなげていきたいと考えている。



「水質調査班」



「ゴミ調べ班」